

都市再生協議会【公共空間再編専門部会】 第1回会合 議事概要

1 会合概要

開催日時：令和7年10月23日（木）15:00～17:00

開催場所：今治市みなと交流センター「はーばりー」1階 みなとホール

開催目的：中心市街地の公共空間デザインに関する検討

主なテーマ：広小路（今治港線）での社会実験について

　　都市再生整備計画、県・市複合庁舎整備について

2 発言概要

（1）広小路（今治港線）での社会実験について

①ゾーニング・プログラムについて

- ・社会実験全体計画（素案）の平面図のうち、緑のところには何かを敷くイメージか。

→人工芝を想定。自治体主催の社会実験としては類のない大規模な人工芝スペースになる。

- ・ゾーンの設定の考え方。

→マルシェとの連携は重要だが、社会実験として取り組むのであれば、あえて港から離れた場所でキッチンカースペースを設けることで、回遊拠点となるかを検証してはどうかと考えている。

- ・社会実験では歩道も連携して取り組むことを想定しているか。沿道と連携して取り組めることはあるか。

②期間・評価方法について

- ・8月8日のプレイヤー協議時点の計画案と比較すると、実験の実施期間が長くなったのはよいと感じた。もしマルシェに合わせて実施する場合、ミニマムの期間でも日曜日開始～翌週の日曜終わりとすることで、マルシェ開催の有無で比較できるとよい。

- ・広小路と商店街を結ぶ回遊ルートであるLINKでの人の動きをどのように評価するかが見えてくるとよい。

→広小路と商店街をどうつないでいくかは、友田氏をはじめ商店街関係者と一緒に話をしながら考えていきたい。評価方法として、昨年度実施した空間特性・アクティビティ調査のデータを用いて比較検証することも考えている。実験期間を活用して、8月8日のプレイヤー協議時に意見をいただいた観光拠点の設置やシェアオフィスなど、沿道での活用の可能性を地域の人たちと探っていく機会になればと思っている。

- ・社会実験の結果によって、整備案がどのように変わる可能性があるかも考えもらえるとよい。

③交通・安全対策について

- ・社会実験期間中の交通について心配している。周知期間は長めに確保した方がよい。
- ・広小路は今治桟橋とバスセンターを結ぶバス交通の背骨となる路線。平日には路線バス 250 便、高速バスを含めると 300 便をつないでいる。車線を絞り込んだ場合、荷下ろしの車両が停車した際にバスが抜けられなくなってしまわないかが心配。TDM による通過交通の抑制や、トランジットモール化によりバス・タクシー以外は通過できない路線にするなどの対策がないと、交通困難を生じる恐れがあると感じている。
- ・広小路での社会実験や再整備にあたり、交通需要のマネジメントとして、まちなかでの交通を自家用車から公共交通に転換する施策とセットで取り組むことが重要。市が音頭を取って進める必要があるのではないか。
- ・これまでの計画は車、駐車場の組合せで行われてきたが、実際の市民の足としては徒歩（ウォーク）と自転車も重要。社会実験で広小路に滞留スペースができた場合、どのように今治のまちが変わることを見てみたい。例えば、2 週間の実施期間の中で今治の高校生がどのように過ごすか、どこに立ち寄るのかも気になっている。
- ・時間の交通規制をする場合、夜間の警備体制を整えていくことも重要。

④合意形成について

- ・現在の整備案では南北の車両の行き来がしづらくなるなど、周辺で暮らす人たちにとっても日常が変わることになる。実験の評価をおこなう際に、中央部を利活用している人たちだけでなく、周辺で暮らしている人の声も拾いながら合意形成していくことが重要。
- ・今治のシンボリックな通りであり、今回の事業は歴史的なものになると思う。色々な人の声を踏まえて合意形成しながら、よいものをつくりていきたい。

⑤官民連携・エリアマネジメントについて

- ・道路を更新すればまちが変わるわけではないのが難しい部分だと感じている。
→全国で行われている取組では、公共投資を行うことで不動産価値が高まり、沿道に新しい店舗、オフィスが入ることもある。公共投資だけでなく、そこに民間投資がのってくる状況をつくっていけるよう、伴走しながら進めることが重要。

⑥体制について

- ・今後社会実験の実行委員などをつくることも考えているか。もし実験を実施すること自体が確定しているのであれば、早めに体制を組んでいけるとよい。

目的意識を持った人が集まる状況をつくることが重要。

- ・社会実験をやってはじめてわかることもあると思う。広小路を人が過ごせる場に変えていく計画について、社会実験を通じて「この方向でよいのではないか」という前向きな意見が出てくるとよい。
- ・社会実験を通じてチームワーク、関係構築ができるといよ。

⑦ロードマップについて

- ・次回以降の専門部会では、広小路の社会実験実施に向けた道しるべ（ロードマップ）を示していただきたい。

(2) 都市再生整備計画、県・市複合庁舎整備について

①都市再生整備計画における KPI の設定について

- ・指標②「子育ての環境や支援への満足度」、指標④「中心市街地の満足度」について、数値としてあまり高くない印象を受けたがどうか。
→指標②は（仮称）今治版ネウボラ拠点施設整備基本計画（2024）の策定時に取ったアンケート調査の結果に基づいている。指標④は昨年度のまちづくり市民会議でのアンケート調査の結果に基づいている。効果検証の定性的な調査項目の一つとして検討している。

②県・市複合庁舎整備について

- ・県・市複合庁舎整備に関する協定を結んだという発表が新聞で出ていたが、その後市に対してネガティブな意見が出たりはしていないか。
→詳細に関する質問の連絡はあるが、反対意見は届いていない。
→皆で前向きにやっていく雰囲気になっているのはとてもよい。この調子で社会実験に進んでいけるとよい。